

## 絆(きずな)

東日本大震災以降、さまざまな場面で「絆」が大きく取り上げられている。そんな中、私はこの言葉をうまく咀嚼<sup>そしゃく</sup>できず、何か上滑りしている印象を持っていた。

ある日、鹿児島県から届けられたお茶を手土産に、仮設住宅を一軒一軒訪問していた時のことである。仮設にお住まいの方から、こんな言葉をかけられた。

「本当に遠いところから届けてくれて、みんな考えてくれているんだね。絆だねえ」

その方の発した「絆」は、とても心地良く私の心に響いてきた。それは、目の前の方と私だけの関係ではなく、《物資を送る人―届ける人―受け取る人》のつながりの中に自分

もきちんと織り込まれていると実感したからだ。

それと同時に「絆」という言葉に



対して斜に構えていた自分を恥じた。言葉に中身を感じていなかったのは、実は自分の問題だったのだと気づかされた。

その方は、こんなこともおっしゃった。

「支援物資は助かっている。衣服は全部もらいもの。ありがたいね。でも、区長さんの元に物資が集まって区分けが大変そうなのよ」

全国から寄せられる物資に感謝しつつ、受け取る側のご苦労も漏らされた。感謝だけでなく苦労をこぼしてもらえる関係。こうした本音の漏らせるつながりのことを「絆」というのかもしれない。

(金澤 豊)